



# 高田 本山 だより

## 念仏のいましめ

法主 常磐井鸞猷

発行所  
真宗高田派宗務院内  
三重県津市一身田町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 33,000部

平成十九年の新春を迎え、  
聖人七百五十年の御遠忌まで  
あと五年となりました。その  
前に、明年は大恩会、その明

後年の平成二十二年には御影  
堂落慶法会と大きな行事が次々  
と目前に迫って来ています。  
山内では諸堂の整備が着々  
と進められていますが、社会  
に目を転じてみれば、いじめ  
によって年少少女が次々と自  
ら命を断ち、全国各地で要職  
者が逮捕されるなど、まことに  
無惨な一年でありました。

派内においても、住職・衆  
徒による刑事事件が続いており、  
ついに殺人・死体遺棄の重罪  
を見るに至りました。世間に  
対しても顔向けできない事態  
であります。

佛教の中でも、真宗は戒律  
のない宗旨ですが、それはお  
念仏がおのずから戒律になっ  
てくださるからです。お念仏  
によって、自然に身が慎しま  
れるので、戒律の必要を感じ  
ないのです。真宗教団の中でも、  
特に高田教団はこの念佛戒に  
着目し、第十八代門上人は『高  
田派源論』をあらわし、真淳  
も『下野伝戒記』を公刊して、  
大いに風儀があらたまつたの  
でした。この宗風を伝承する  
教団として、僧俗共に、お念  
佛のおのずからなるいましめ、  
つつしみを身に得てゆこうで  
はありませんか。

年末のあわただしい空気の中にも、なおさまざまな事件  
が報じられました。この国は  
どこへ行き着こうとするので  
しょうか。来たるべきお七夜  
報恩講に僧俗集結して、念佛  
社会の建設に前進できますよ  
う切願しています。



御廟の森殿を引き立てる  
素晴らしい建築  
平松令三

前回お話ししました親鸞聖人のお墓の正面には、拜堂が建っています。外観は屋根が正面に大きな千鳥破風をとりつけていたり、堂内の床は禅宗寺院の堂のように瓦敷きであつたり、いささか異様ですが、聖人のお墓に面する側の戸は

すべて明け放つてお墓の全容をよくおがめるようになっているので、違和感はありません。その拜堂の正面には、唐門とその両袖から左右にのびて御廟全体を囲う高塀があります。唐門は、如来堂の前にある。大唐門とちがつて、小さく可愛らしい唐門です。

唐門と呼ばれる由来の唐破風は、如来堂の門が屋根の正面と背面の軒に付いているのに対して、これは左右の妻のところにあるので、平唐門という形式です。扉は御法主様がご参廟の際にだけ開かれています。いつもは閉じられています。扉には細かい彫刻の装飾が全面に施されていて、工芸品を見るようです。

そして更に素晴らしいのが、その両袖に連なる透塀です。基礎は石造ですが、上半分は木造で、花菱を繋いだ格子を透かし彫りにし、その下の羽目板には、しぶきの飛び散る波を半肉彫にしてとりつけています。この塀のデザインは実に瀟洒で洗練されていて、素晴らしいと高い評判になっています。そこで記録を調べてみますと、このデザインは、幕末の画家で、南画の名手山本梅逸の手にかかるものと同じ感じですが、残念なことに、どこにも落款等がありません。だいたいこれらの建立年代からして明確な史料を欠いているのですが、拜堂の瓦の中に、安政五年（一八五七年）の銘のあるものがあることと、全体の建築手法から見て幕末近いころであろうと推定されますので、梅逸の活躍した時代と一致します。

幕末近くといえは、尊皇攘夷の嵐が吹き荒れた時期です。でもここでは御廟の樹叢がこれらの建築に囲まれて、森閑とした静寂を湛えていたのです。（宝物館主幹）

宝物館特別展観

高田本山には国宝に指定されている宗祖親鸞聖人筆の『西方指南抄』や『三帖和讃』をはじめ、数々の重要な宝物が伝えられ、宝物館に収められています。

これら宝物を幕府から守るために、高田派第十五世堯朝上人が江戸の唯念寺で切腹された悲劇は有名な話であります。お七夜期間中は、この宝物館の特別展観を行います。今年、如来堂・御影堂の両御堂大修理工事によって発見された貴重な資料が、初めて公開されます。また十日から十五日の午後一時からは説明も行われます。この機会に、ぜひご覧下さい。



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075)371-0854・8181~2番  
FAX (075)344-2701番  
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装  
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)  
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」  
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

リレー法話

一茶と真宗

本多 正澄

を赤裸々に俳句に表現している貴重なものであることが解

・もたいなや 虫も衰きて  
かせぐ世に  
以下信心に係ると思われ

して、臨終の一念にいたるま  
でとどまらず、きえずたえず」  
（『一念多念文意』と述べて

の華を雨と降らすごとく「素  
人の念佛」に桜も感動しては  
らはらと散っている。恐らく

数ヶ月前のある日のこと、

一茶は宝暦十三年（一七六

・涼しさに ミダ同体の  
あぐら哉

・秋の夜 祖師もか様に  
石枕

業に行商に会社勤めに励み、  
長寿を全うした二人の未亡人

高橋時代の友人Nが突然拙寺

三年）信州柏原（長野から北

一茶は手次ぎの明専寺はか

・素人の 念佛にさへ  
桜ちる

の明るさとやさしさを特に思  
い浮かべておりました。

を尋ねた話のついでに一茶の

へ二十五キロ。黒姫駅下車）

も聞法に熱心に出掛けていま

一茶の佛教理解がきわめて該

業に行商に会社勤めに励み、  
長寿を全うした二人の未亡人

寺明専寺のことが話題になり

境に近く北国街道の宿場とし

阿弥陀仏と同じあぐらをかい

博であることは、「父の終焉

の華を雨と降らすごとく「素

ました。「本堂の外観や内部

て物資輸送の中継地で、御開

ていると詠むのは、往生して

すが、聖人の九十年の生涯に

の華を雨と降らすごとく「素

と驚いたが、君の寺は何宗か

道でした。火山灰地・豪雪地

・はづかしや おれが心と  
秋の空

教を通して熟知していました。

の華を雨と降らすごとく「素

と聞くのです。「拙寺は真宗

帯という厳しい自然環境の上

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

の高田派だが、明専寺はたぶ

に三歳の時、母を失い八歳の

人身受け難しの自覚は、自

二句目の素人を凡夫の語に置

の華を雨と降らすごとく「素

ん本願寺派だろう」と答えま

時継母を迎え、十四歳の時祖

・此風に 不足いふ也  
夏座敷

をして念佛を称えしめようと

の華を雨と降らすごとく「素

した。Nは十年以上も俳句を

母の死、十五歳で江戸奉公に

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

やっついて、以前にも種々の

出で、各地を遍歴して、五十

・此風に 不足いふ也  
夏座敷

をして念佛を称えしめようと

の華を雨と降らすごとく「素

俳人の文を持ってきていまし

歳歳の婦郷の後も弟との相競争

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

たが、多忙のため、熱心に読

妻を失う悲劇の末、類焼に

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

活に恵まれぬ中で念佛生活

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

二万とも二万を越えるといわ

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

れる句作生活の末に次のよう

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

な句が現れました。

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素

・活てあふ けふも桜の  
御陰哉

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

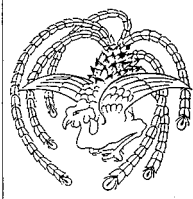
の華を雨と降らすごとく「素

・むだな身に 勿体なさの  
日永哉

・秋日和 とも思はない  
凡夫かな

この句は五十八歳の九月「枕

の華を雨と降らすごとく「素



仏壇・仏具  
ぬし与

ホーオーが目印 /

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

# ご和讃のお話

友松 孝丸

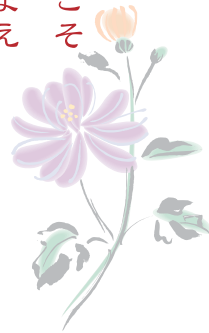
末法五濁の衆生は

聖道の修行せしむとも

ひとりも證を及じとこそ

教主世尊はときたまえ

(道綽禪師第三首)



「ごえんさま、この世の中でジーツと見続けられんものが、二つあるが知ってりやーすか」  
 咄嗟にこう切り出されるとドギマギしてしまいます。  
 「一つはなも、朝出て夕方沈むもの。もう一つは、ごえんさまがよく話してりやあすぎやあも」  
 「前の方は分かったが、後の方は……」  
 「ごえんさまも頭で分かっているだて身には案外分かつたりやあせんも。『我』だぎやあも。ごえんさま、『我が機は悪きいたずらもの』と、よく言つてりやあすぎやあも」  
 お同行のおばあさんには完全に一本取られました。

このご和讃の教えは、字面から見れば取り立てて難しいところはないと思います。でも末法といわれる現代に人間の力で修行を積み、さとれるかと問われれば、否！と答えるのをえません。だが、人間の力（自力）の無効さがどこまで本当に分かっているかとなると、これは大変危ういものです。

「歎異抄」に、「弥陀の本願不思議におわしませばとて、悪をおそれざるは、また、本願ほこりとして、往生かなうべからずということ」という言葉があります。

これを、「弥陀の本願不思議だといっても、それに甘えて悪をしてはなりません。努力して出来るだけ善を行うようしなければなりません」と解したら、自分では気も付かんような所でちゃんと自分の力（自力）を頼みにしている。我に気付かされ、ハッとします。

自力を頼みとするしぶとい我（闇）を、飽くことなくその無効さを照し出す教（光）。頭で分かっているが、本性の所では自力へと絶えず倒れ続ける我に、弥陀・釈迦・道綽それに「開山聖人と「我的自性」を知れと、これまた呼び掛けずめに呼びかけておつて下さるご和讃だと私には響きます。仏さまの、大悲なのであいは、逆から見れば暗闇の自力根性の抜けぬ我とのであいなくして得らるものではないののではないかと問われ続けている私です。

(愛知眞実和町 西光寺住職)

## 深夜まで おつとめの声

御正忌報恩講（お七夜さん）の間、連夜・初夜・晨朝・日中の一日四座のお参りが勤まります。しかし、十五日は初夜勤行の後も夜遅くまでお参りが勤まります。

四時半からの初夜勤行は、三段まであるお式文を、法主殿又は法嗣殿が一時間ほどかけて全部拝読される「三段通読」が行われます。このお勤めの途中には、のどを潤されるお茶を法主殿にお届けする「お湯桶のお給仕」や、法式部が、長くなつた蠟燭の芯を切る「捻灯」など、この時にしか見られない作法が行われます。



お湯桶のお給仕

初夜勤行とお説教が終わると引き続き、ししこ念仏が始まります。これは白塚の方々が集まってされるおつとめで、一時間ほどのお参りです。

### ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス) 本山会席

人気商品 高田本山流 精進料理

各種献立よりお選びいただけます。 〇精進料理 1人前 4,000円(税別) 〇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせご注文は 高田青少年会館 TEL.059-232-6079

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

普段見ることのできない職人絵師の世界をご紹介します。



## 御本山絵所 『天井画展』

2007年 1月9日～16日

開山聖人のご正忌報恩講大法会(お七夜)

場所:本山宗務院2階 第3会議室

仏殿にささげる天井画。 四季折々、色とりどりの花鳥画等ご覧ください。

# 仏事のQ&A

七高僧シリーズ7

## 源空(法然)上人とは



もとめなさい。」と遺言されました。

八)、上人に深く帰依していた関白九条兼実の要請により『選択本願念仏集』を著わされ、末法五濁悪世の凡夫の救

順ずるがゆゑなり。」という文に出会って心の闇が晴れ、専修念仏の教えに帰入されました。そして比叡山を下り京都東山吉水に住み、念仏の教えを弘められました。上人四十三歳のときでした。  
建久九年(一一一九)

親鸞聖人が七高僧の第七祖にあげてみえる源空上人(一一三三-一一二二)は、浄土宗の元祖で、法然房源空と号し、親鸞聖人の直接の師であります。長承二年(一一三三)美作国(岡山県)久米南条稲岡庄に誕生されました。幼名は勢至丸といひます。

上人は父の遺言に従い、その後間もなく菩提寺に入り、十五歳のとき比叡山の皇円について得度し、天台教学を学ばれたのち、十八歳のとき黒谷の叡空に師事して、仏教各宗、また各宗の名僧高僧について学ばれました。しかし、さとりの道は依然として暗く、ただ焦燥の中に時が流れていくばかりでした。

承安五年(一一七五)いつものように黒谷の報恩蔵にもって一切経を読みふけていた上人は、善導大師の『観経疏』散善義の「一心にもつぱら弥陀の名号を念じて、行住坐臥に時節の久近を問はず念々に捨てざるは、これを正定の業と名づく、かの仏願に



通夜勤行

さらに続いて、一身田寺内町のみなさんと本山内にある各講社の方々が合同でされるお勤め(通夜勤行)が始まります。皆さんもおなじみの『文類さん』と『和讃』があげられますので、お勤めに参加されてはいかがでしょうか。  
午後十一時から(後夜勤行が始まります。法主殿と法嗣殿、本山の職員がお参りをされます。報恩講期間中のお参りは、色衣、五条と袴という衣体が普通ですが、このお参りは黒衣と墨袈裟で皆さんが出勤され、『入出二偈』と『愚禿悲嘆述懐和讃(浄土真宗に帰すれども)』の五首引が勤まり、全ての行事が終わるのは十二時前になります。  
寒さが厳しい季節ですが、この日の御堂は、真夜中まで賑います。

緑と共に75年  
三重県知事免許認可  
(一級造園技能士)造園・庭園管理

## 山本造園

代表 山本 進一郎  
津市栗真小川町 869-77  
TEL 232-7453  
FAX 232-7453

# 石筋

高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦  
石碑 記念 燈籠

高級御影石専門店  
**御影石材株**  
(石に御用の方は) イシニキョウ  
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

# 雅楽のすすめ

雅楽は、庶民の音楽に対して宮中や大きな社寺において演奏された「雅で正しい音楽」のことで、高田本山においてもその昔から主要な法会の際には雅楽が演奏されてきました。

その歴史は定かではありませんが、寛保三年（一七四三年、江戸中期）の「御堂方記録」に、五月一七日お日中の差定が「御焼香。音楽・四奉請・下巻・一首和讃・廻向・音楽。」と記されており、同十八日のお日中も「御着座・音楽・四奉請・小経・二首和讃・廻向・音楽。」（「復刻御堂日録」から）とあるところから、高田本山においては二百六十年以上も昔から演奏されていたことを知ることができます。

その後、御開山聖人七百回御遠忌のころ（昭和三十年代中頃）までは僧侶により伝承されてきたようで、そのころを境に、楽人さんの構成が僧侶から一般お同行の方々へと移ったようであります。

現在の高田本山における雅

楽は、高田派お同行の方を中心とする「井上雅楽愛好会」の皆さんにより演奏されており、厳かな雰囲気の中で、参詣者の心に染みわたる美しい音を聞かせてくださっています。

「井上雅楽愛好会」は、津市安濃町井上の井上集落センターを拠点に、十数名の会員が、各管リーダーの指導による月三回の練習を始め、高価な楽器の維持管理費及びテープやCD等の教材も会員の自費でまかなうほか、第十四組（増信講組）で春秋厳修している増信講などで演奏するといった活発な活動が行われています。

今後は、雅楽や高田山讃歌、恩徳讃等の仏教聖歌を各種法会などの仏教行事に積極的に取り入れてゆくことも、若い世代にアピールする一つの方法ではないかと思えます。

「井上雅楽愛好会」に関しての

お問い合わせは、

TEL 〇五九一三三二四二七一

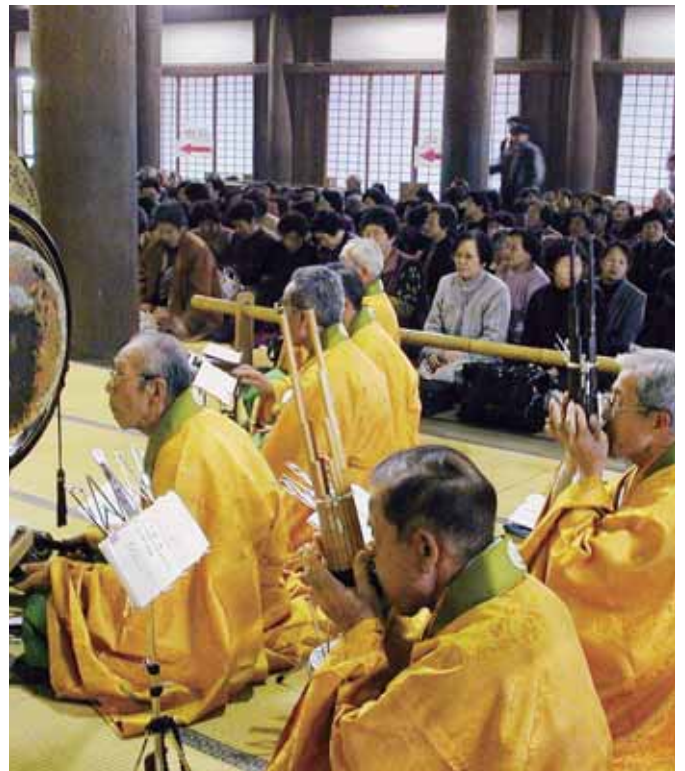
高田本山宗務院まで

## 清掃奉仕

ありがとうございます

汗を流して清掃奉仕

六月	三誓寺	正源寺	宣隆寺
七月	高山寺	光明寺	
七月	法林寺	勝光寺	崇徳寺
七月	本立寺	本浄寺	林昌寺
七月	光福寺	念聲寺	
八月	宝珠寺	誓休寺	深藕寺
八月	欣念寺		
九月	正信寺	蓮花寺	金光寺
九月	聖徳寺		
十月	弘善寺	西運寺	佛教寺
十月	寶祥寺	心海寺	
十一月	台蓮寺	見潮寺	西元寺
十一月	宗休寺	常善寺	願行寺



お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達  
石匠位認定店  
全国優良石材店、認定店

創業100余年

ISHIEN STONES 株式会社 ストーンズ 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーイン

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

(〒600-8503)

電話 (075)351-1234(代)

フリーダイヤル ☎ 0120-075-720

フリーダイヤルFAX 0120-075-490

報恩講行事

一月九日(火)

十二時三十分 速夜勤行 説教 水谷大延師  
午後四時三十分 初夜勤行 説教 比良多道晃師

一月十二日(金)

午前七時 晨朝勤行 説教 藤井徳雄師  
午前九時 高田学園報恩講参拝  
午前十時三十分 日中勤行 説教 織田信海師

一月十日(水)

午前七時 晨朝勤行 説教 中西善薫師  
午前十時 高田幼稚園報恩講参拝  
午前十時三十分 日中勤行 説教 中村宜興師

午後二時 速夜勤行 説教 廣田隆学師  
午後四時三十分 初夜勤行 説教 田上洋心師

お七夜坊守会

十二時三十分 大講堂説教 千草篤昭師  
午後二時 速夜勤行 説教 眞岡慶光師  
午後四時三十分 初夜勤行 説教 里榮秀教師

一月十三日(土)

午前七時 晨朝勤行 説教 戸田恵信師  
午前九時 特別講演 栗原廣海師  
午前十時三十分 日中勤行 説教 三山信恵師

一月十一日(木)

午前七時 晨朝勤行 説教 堤 妙縫師  
午前十時三十分 日中勤行 説教 金森顕宏師  
責任役員会  
午前十二時 高田保育園報恩講参拝  
十二時三十分 大講堂説教 長谷部行雄師

午後二時 速夜勤行 説教 大河戸悟道師  
午後四時三十分 初夜勤行 説教 眞昌智海師

一月十四日(日)

午前七時 晨朝勤行 説教 隆 妙艶師  
午後二時 速夜勤行 説教 三栗家篤証師

午前七時 晨朝勤行 説教 隆 妙艶師  
午後二時 速夜勤行 説教 隆 妙艶師

午後四時三十分

初夜勤行 説教 都築堯寛師

午前九時

特別講演 梅林久高師

午前十時

他山御代香

午前十時三十分

日中勤行 説教 花山光瑞師

十二時

お七夜青年大会

十二時三十分

大講堂説教 斎藤正澄師

午後一時三十分

新成人の集い

午後二時

速夜勤行 説教 谷口光進師

午後四時三十分

初夜勤行 説教 小堀高生師

一月十五日(月)

午前七時 晨朝勤行 説教 安藤章仁師  
午前十時三十分 日中勤行 御親教 復演 小妻道生師  
午前十一時三十分 法主褒賞式  
十二時三十分 大講堂説教 戸田信行師

午後二時 速夜勤行 説教 松山智光師  
午後四時 初夜勤行 説教 藤山真哉師

午後四時 初夜勤行 説教 藤山真哉師  
午後七時 白塚ししこ念仏  
午後八時 護持会通夜念仏

午後四時 初夜勤行 説教 藤山真哉師  
午後七時 白塚ししこ念仏  
午後八時 護持会通夜念仏

午後四時 初夜勤行 説教 藤山真哉師  
午後七時 白塚ししこ念仏  
午後八時 護持会通夜念仏

午後四時 初夜勤行 説教 藤山真哉師  
午後七時 白塚ししこ念仏  
午後八時 護持会通夜念仏

後夜

一月十六日(火)

午前七時 晨朝勤行 説教 清水谷正尊師  
午前十時三十分 日中勤行 説教 菱井龍生師  
十二時三十分 大講堂説教 安田真源師

その他

一月九日～十六日 お七夜献書展  
一月十日～十五日 お七夜写真展  
一月九日～十六日 真宗高田派専修寺絵所  
一月九日～十六日 安川絵師が描く天井画展  
一月九日～十六日 宝物館特別拝観  
一月九日 十二時～十五時  
一月十日～十五日 十時～十五時  
一月十六日 十時～十三時  
宝物館説明  
一月十日～十五日 午後一時  
一月九日～十六日 案楽庵見学  
一月九日 十四時  
一月十日～十五日 十一時・十四時  
一月十六日 十時  
(天候等により中止の場合あり)  
一月十日～十五日 十時～十五時  
お尋ねコーナー

白川晴顕著  
浄土真宗は  
目覚めの宗教

浄土真宗は目覚めの宗教、阿弥陀さまの見方と大きな温もり、親鸞聖人と常識を超えた教え、御正忌報恩講に寄せて、愚かになつて卒業等二十数篇の法話 定価1200円税込

無名会同人編  
仏と人40

四天王寺の海 源義春/お仏飯を歌う 南部松雄/人生の最終コーナー 森正隆/救いという事(その二)とくに現生正定聚をめぐって 梯實園/尋常に非ず、臨終に非ず 高田慈昭/世の中安穩なれ 足利孝之 定価410円税込

稲城選惠著  
他力の信心は  
awakeか

稲城選惠著  
静的宗教と  
動的宗教

定価500円税込

梯 實園著  
白道をゆく

善導大師の生涯と信仰  
定価2520円税込

永田文昌堂  
600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入  
FAX 0755-33711-66655  
TEL 0755-33711-66655  
0150-2004-93361

# 蓮 募集のお知らせ

来年(平成19年)の3月頃に蓮の根分けをしたいと思っております。蓮の管理費の一部にする為にご希望の方にお分けしたいと思っております。数量に限りがありますので先着順でお願いいたします。

期間 2月28日まで  
金額 1万円(Φ50×40瓶付)  
連絡先 本山宗務院藤原まで  
(TEL〇五九一三三二四一七二)

- 藤壺蓮 3大型 ピンク
- 青菱紅蓮 3大型 濃いピンク
- 大賀蓮 5大型 ピンク
- 醉妃蓮 2大型 爪紅
- 曉風涼月蓮 2小型 爪紅
- 輪王蓮 3大型 白
- 剣舞蓮 2大型 白
- 白万万 5大型 白
- ミセス・スローカム 3大型 黄
- 仏足蓮 2中型 ピンク
- 八重 八重

合計 30鉢



醉妃蓮



仏足蓮



曉風涼月蓮



ミセス・スローカム



藤壺蓮



青菱紅蓮



剣舞蓮



白万万



輪王蓮

## お七夜 「お尋ねコーナー」 開設のご案内

例年お七夜に開設し好評をいただいております「お尋ねコーナー」を平成19年度も実施致します。この試みは本山参詣の方々に「仏事に関する質問や疑問悩み等」について、ご相談に必ずるために、教員の研究員が中心となって対応しております。下記のように計画致しました。

### 記

期間 平成19年1月10日(水) 15日(月)  
時間 毎日10時より15時まで  
会場 宗務院1階ロビーに特設します。  
質問 平素お気づきの仏事に関する疑問、悩み、困り事等何でも結構です。本山教員研究員がご相談に致します。  
担当 相談に致します。  
よい機会と存じますので、お気軽にお立ち寄り下さい。秘密は固くお守り致します。



大賀蓮

## これからの本山諸法会

### 修正会

一月一日〜三日 阿弥陀如来とともに新年を迎えられたことを喜ぶとともに、如来の恩徳を謝し如来の本願を届けて下さった祖師の方々に讃仰する年の初めの法会です。一月一日の晨朝は、法主殿が自ら御仏飯を上げられる「御親給」が行われ、ご廟でのお勤めもあります。

### 編集後記

十一月初旬に、住職をつとめている寺の報恩講が終わった後、風邪をひきました。このところ私の恒例行事になっています。一般寺院の行事は他にもいくつかありますが、むかえる前の緊張感といい、終わった後の安堵感といい、やはり報恩講は真宗寺院にとって特別な行事なのだ実感しました。「もう報恩講は終わった？」この言葉が十二月中旬までは住職同士の挨拶になっています。

## 寺院名

◆定順上人五百五十年忌法会  
二月二十八日〜三月二日  
高田派第八世の定順上人(一三八九〜一四五七)は、わす